

2016/12/16

柏の景気情報（平成28年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成28年11月分）

○ 調査期間 : 平成28年11月24日 ~ 平成28年12月7日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	74	47.4%
建設	44	20	45.5%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	43	24	55.8%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年11月の調査結果のポイント】

◀業況DIは2ヶ月連続で悪化。先行きはやや改善も不透明感から慎重な見方が続く▶

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲28.5)、製造業▲14.2(同▲25.0)で、特にサービス業ではマイナス幅が22.3ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲25.0(同±0.0)で、マイナス幅が25.0ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲41.6(同▲34.7)である。

【建設業】からは、「先月から引き続き年内に畳工事をしたいというお客様が増加。マル得チケットを見たというお問い合わせも多かった。」(内装工事業)、「少子高齢化の影響が出てきており、業績は右肩下がりが続きそう。」(その他の職別工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「9月のみ好転したが10月からまた元に戻っている。年末の駆け込み需要に期待するも、低空飛行は続く見込み。」(その他の機械・同部品製造業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料品不況の中、ますます低価格化が進んでいる。高額商品は苦戦中で、コートをはじめ全てのアイテムが良くない。」(婦人・子供服小売業)、「そごう閉店後、来店客数が減少。閉店までのセールが影響したと思われる。12月からの客足がどの様に推移するか、予測が見通せない。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「43年ぶりの11月降雪もあり、衣料品中心に安定した売上は確保できた。その中、寒さもあり肌着は好調に推移している。冬のお歳暮ギフトを開始し、昨年まで売れ筋の油、ビール、菓子などはあまり売れていない。果物、干し芋などが昨年を上回る動向を見せている。しかし、ギフト全体としては9掛けで推移し、不景気感は強い。」(その他の各種商品小売業)、「秋物は不調だったが冬物の出だしは好調。歳末セールに期待したい。」(その他の各種商品小売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「年度末に向かい、新学期用品で単価の低い商品(200円～800円)の値上げが多い。来店客数は横ばいだが、客単価が低く収益の改善にならない。新年度より新規プロポーザルの提案案件があるが提案期間が短く、良い提案が出来ず厳しい。」(その他の飲食料品小売業)、「そごう閉店の影響は大きかったものの、柏を良くするためには、各自の事業を充実させていく必要がある。」(不動産賃貸業)、「百貨店や老舗ホテルの撤退の影響と、近隣郊外商業施設の影響で、柏駅周辺の人の流れが減少している印象。」(不動産賃貸・管理業)、などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰

各業種より、「銅価格が上昇しており、その影響でケーブル関連の仕入単価が上昇している。」(電気工事業)、「毎日の食卓需要の野菜は価格が高く、食品全体の売上は高まらない傾向が続いている。」(その他の各種商品小売業)、「野菜(じゃがいも、玉ねぎ、にんじん)や苺・卵などが高値になっており、厳しい状況。そごう柏店の跡地がどの様になるのかが心配。」(菓子・パン小売業)、「11月の突然の雪による影響で低温が続き、入荷量減少、高め取引で動いている。季節ならではの鍋物等の消費は動いているが、安価価格はすぐには望めない見込みだが、師走の忘年会などのイベントが多い時期であるため、しっかりと取引先に対応していきたい。」(食料・飲料卸売業)、などのコメントが寄せられた。

◎受注減少

各業種より、「メンテナンス工事が多く、大規模工事は全体的に低い。」(一般土木建築工事業)、「お客様からの問い合わせが減少している。不動産の購入意欲が下がっている。年末にかけて長期間滞留していた不動産が市場に出てくると推測している。トランプ効果にも期待したい。」(不動産管理業)、「設備投資減少が響いており、年度末に向けて売上の巻き返しを図るも、中々上向かない状況。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「長雨の影響が続き、10月工期の現場がやっと完了。全ての現場で工期ずれの為、毎日段取りが大変な状況がずっと続いている。早朝、夜間、休日の作業が出来ない現場が多い中で、作業短縮は出来ず、突発的な仕事は断っている状況となっている。また、事務処理の人材が足りない状況が続く。」(その他の職別工事業)、「相変わらず人手不足が続いている。今後とも人件費は増え続けていくと思われるので、より付加価値の高い商品開発が必要である。また、どうすれば人が定着するかも会社全体で考えていかなければならない。」(各種食料品小売業)、などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
見通し	▲20.2	▲15.0	▲7.1	▲37.5	▲12.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大した。

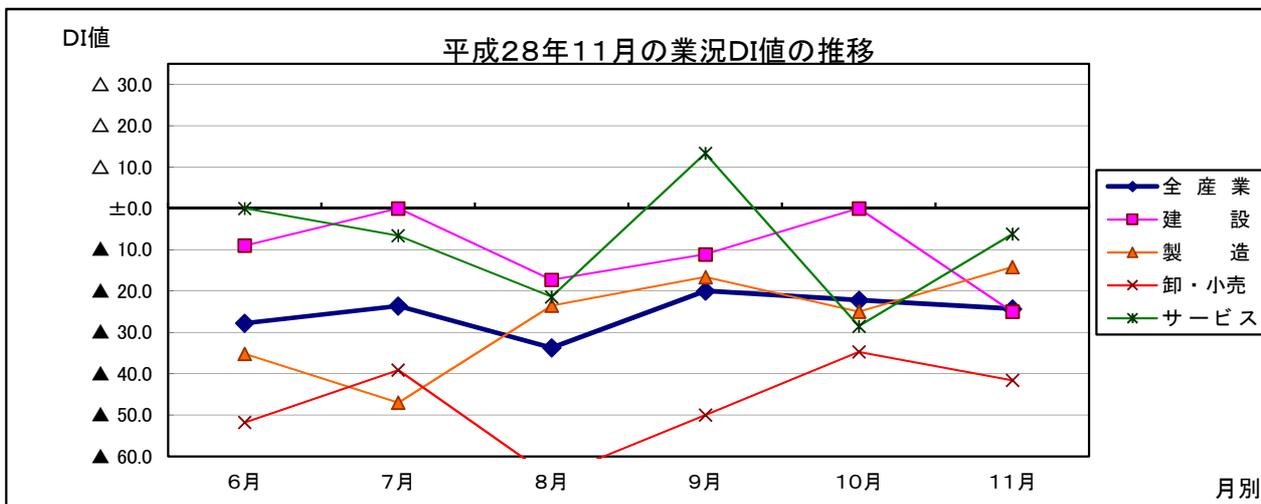
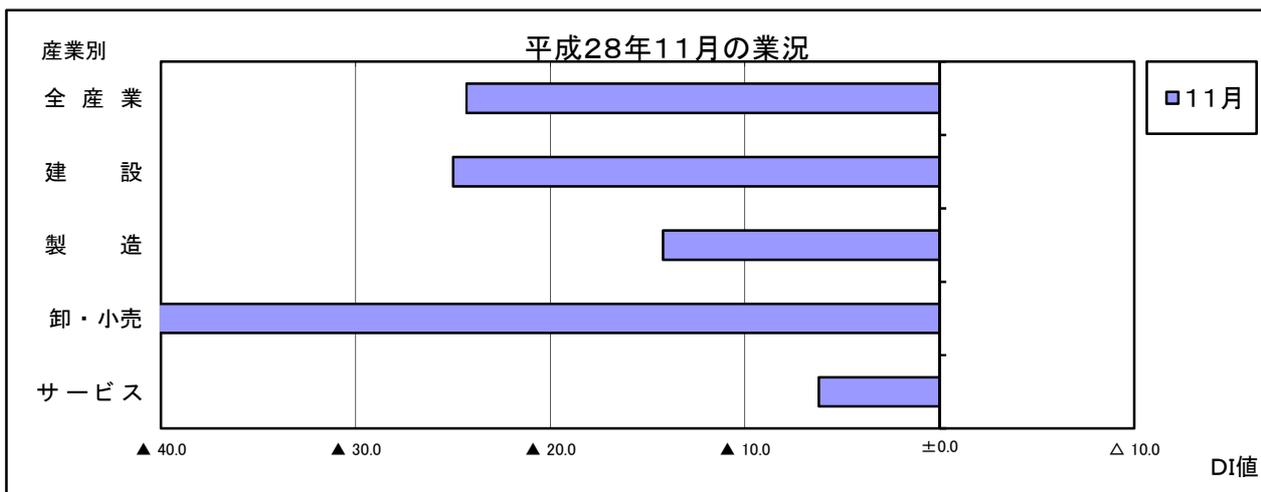
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲28.5)、製造業▲14.2(同▲25.0)で、特にサービス業ではマイナス幅が22.3ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲25.0(同±0.0)で、マイナス幅が25.0ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲41.6(同▲37.5)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.2(前月水準▲23.6)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.5(同▲52.1)、製造業▲7.1(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.0(同▲5.2)、サービス業▲12.5(同▲14.2)である。

平成28年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲27.8	▲23.6	▲33.7	▲20.0	▲22.2	▲24.3	▲20.2(▲23.6)
建設	▲9.0	±0.0	▲17.3	▲11.1	±0.0	▲25.0	▲15.0(▲5.2)
製造	▲35.2	▲47.0	▲23.5	▲16.6	▲25.0	▲14.2	▲7.1(▲12.5)
卸・小売	▲51.8	▲39.1	▲65.2	▲50.0	▲34.7	▲41.6	▲37.5(▲52.1)
サービス	±0.0	▲6.6	▲21.4	△13.3	▲28.5	▲6.2	▲12.5(▲14.2)



【平成28年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.2(同▲16.6)であり、マイナス幅が0.4ポイント縮小した。

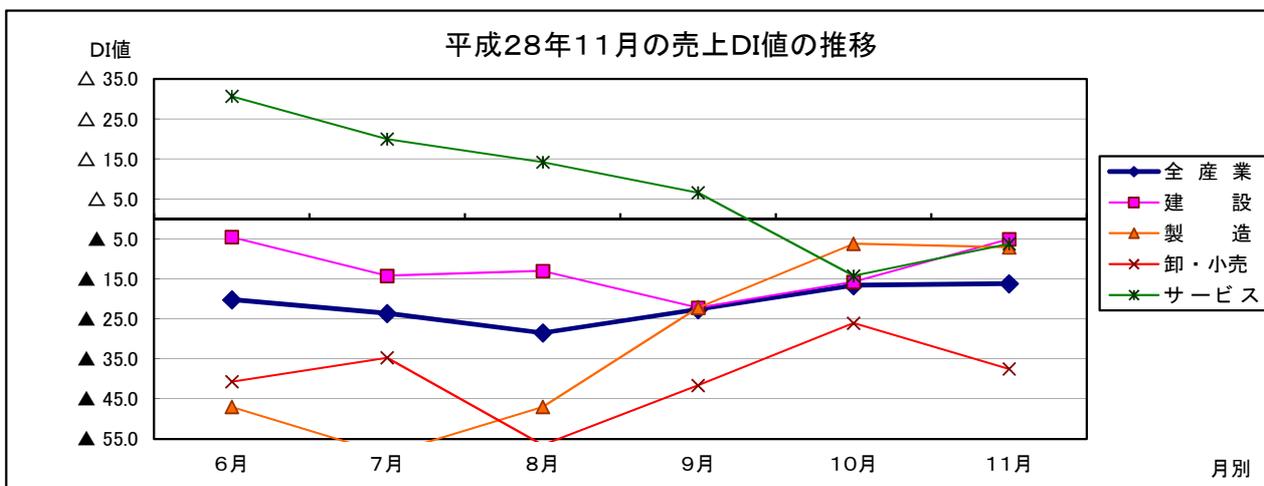
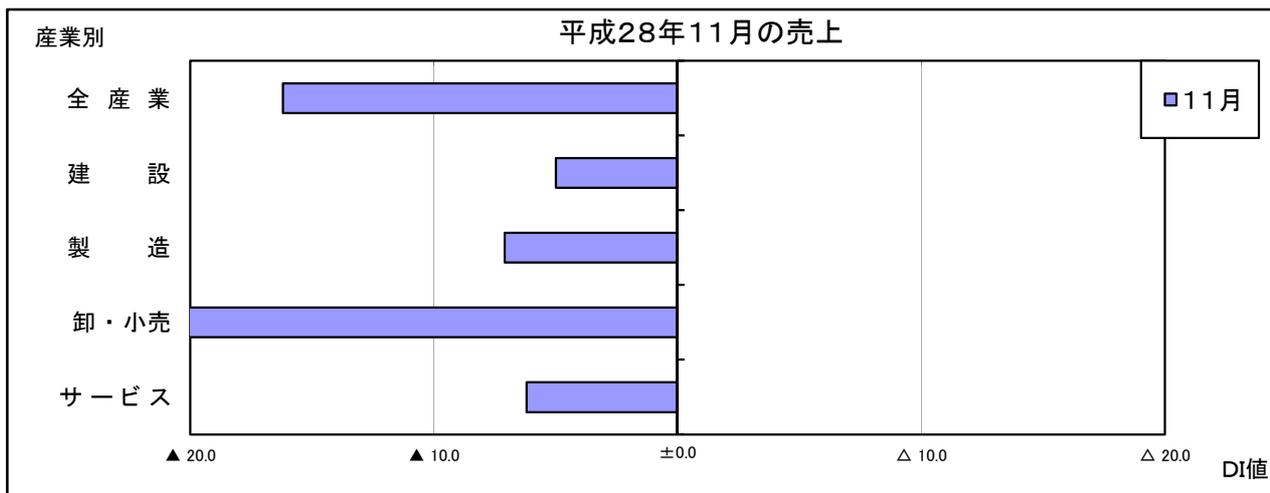
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.0(同▲15.7)、サービス業▲6.2(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.5(同▲26.0)、製造業▲7.1(同▲6.2)、である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.1(前月水準▲5.5)となり、マイナス幅が2.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲20.8(同▲26.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△5.0(同△15.7)である。、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲21.4(同▲6.2)である。

平成28年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲20.2	▲23.6	▲28.5	▲22.6	▲16.6	▲16.2	▲8.1(▲5.5)
建設	▲4.5	▲14.2	▲13.0	▲22.2	▲15.7	▲5.0	△5.0(△15.7)
製造	▲47.0	▲58.8	▲47.0	▲22.2	▲6.2	▲7.1	▲21.4(▲6.2)
卸・小売	▲40.7	▲34.7	▲56.5	▲41.6	▲26.0	▲37.5	▲20.8(▲26.0)
サービス	△30.7	△20.0	△14.2	△6.6	▲14.2	▲6.2	△6.2(±0.0)



【平成28年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.0(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。

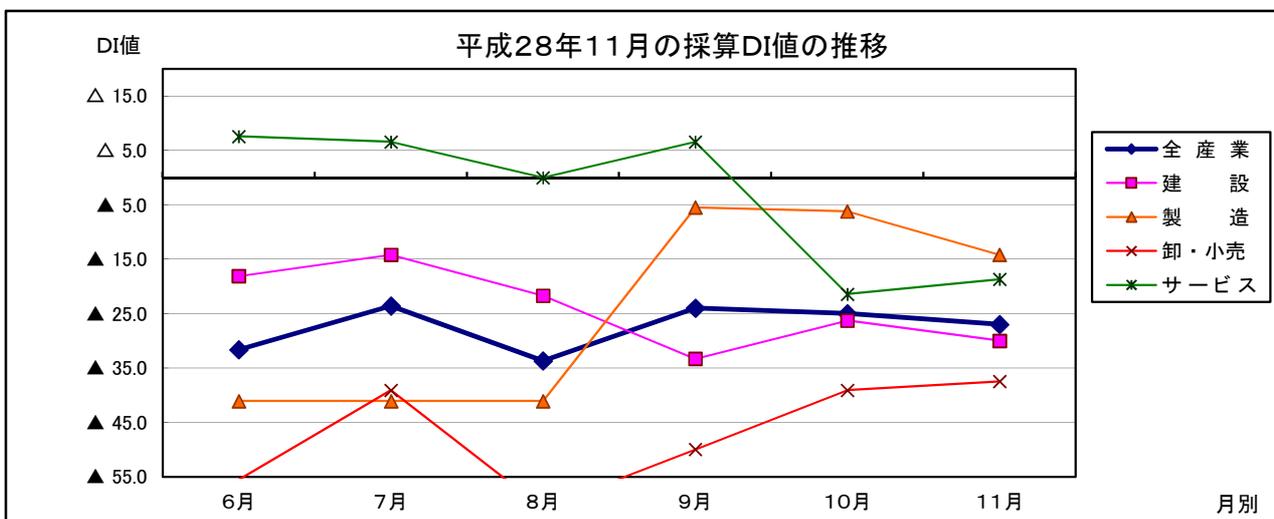
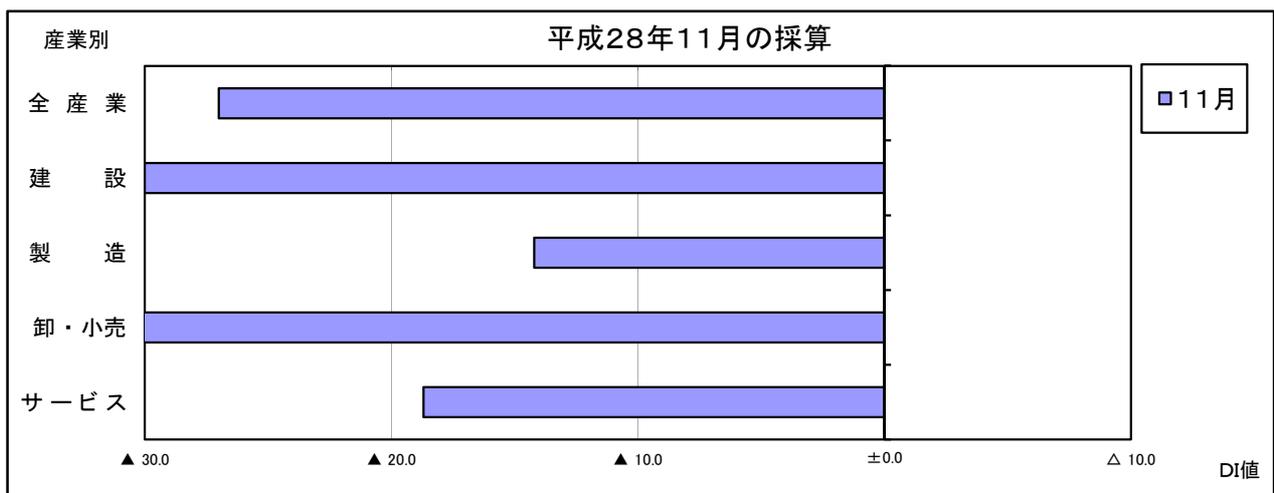
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲21.4)、卸小売業▲37.5(同▲39.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲14.2(同▲6.2)、建設業▲30.0(同▲26.3)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.2(前月水準▲20.8)であり、マイナス幅が4.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲25.0(同▲47.8)である。変わらない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲10.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲28.5(同▲25.0)である。

平成28年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲31.6	▲23.6	▲33.7	▲24.0	▲25.0	▲27.0	▲16.2(▲20.8)
建設	▲18.1	▲14.2	▲21.7	▲33.3	▲26.3	▲30.0	▲10.0(±0.0)
製造	▲41.1	▲41.1	▲41.1	▲5.5	▲6.2	▲14.2	▲28.5(▲25.0)
卸・小売	▲55.5	▲39.1	▲60.8	▲50.0	▲39.1	▲37.5	▲25.0(▲47.8)
サービス	△7.6	△6.6	±0.0	△6.6	▲21.4	▲18.7	±0.0(±0.0)



【平成28年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.6(前月水準▲27.7)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。

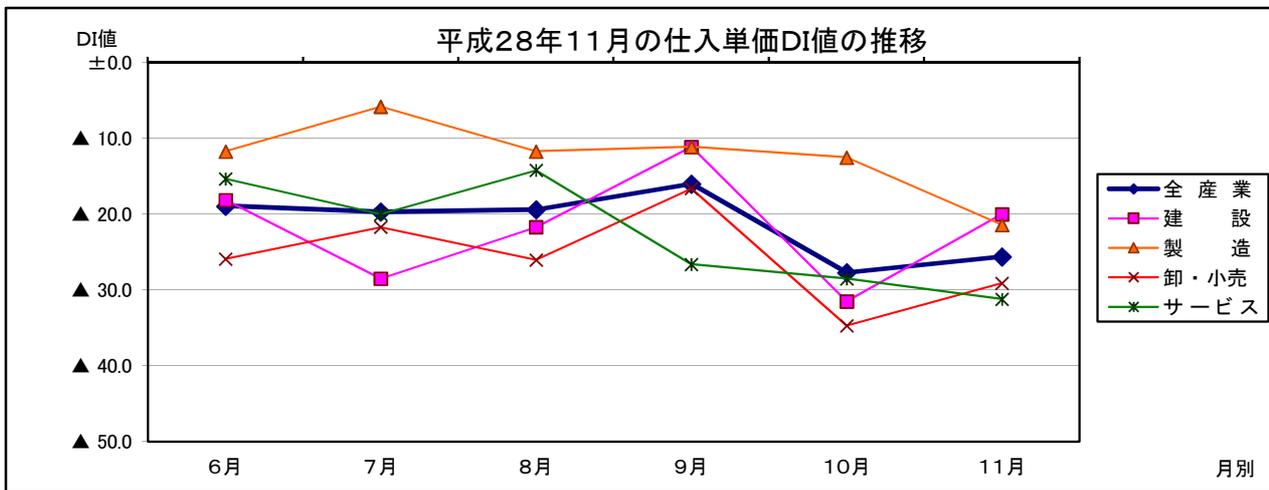
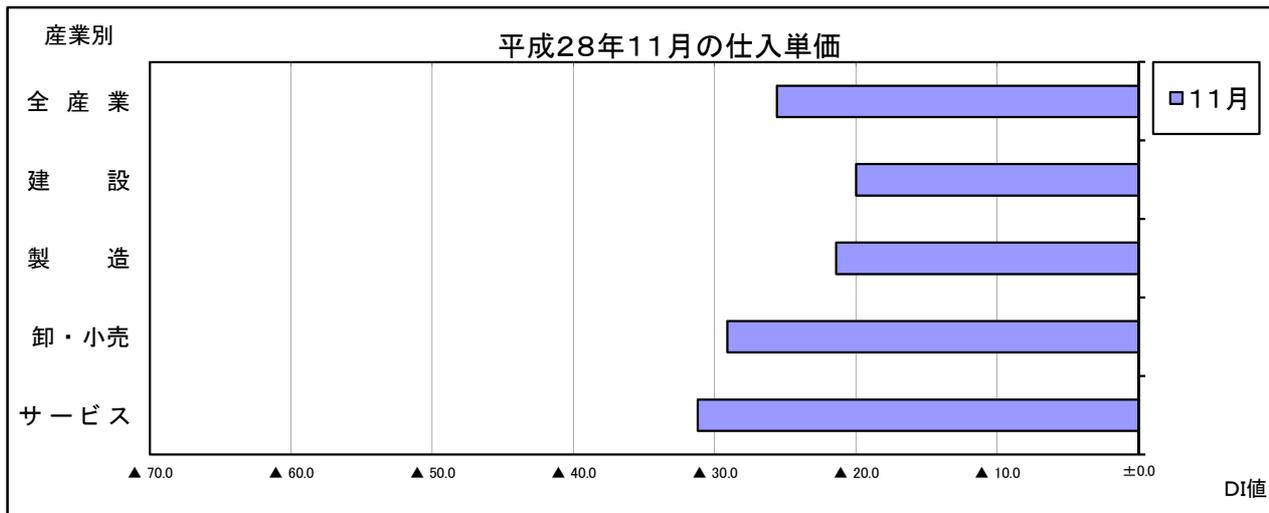
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲31.5)、卸小売業▲29.1(同▲34.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.4(同▲12.5)、サービス業▲31.2(同▲28.5)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.2(前月水準▲19.4)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲25.0(同▲30.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲21.4)、建設業▲20.0(同▲10.5)である。

平成28年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲18.9	▲19.7	▲19.4	▲16.0	▲27.7	▲25.6	▲20.2(▲19.4)
建設	▲18.1	▲28.5	▲21.7	▲11.1	▲31.5	▲20.0	▲20.0(▲10.5)
製造	▲11.7	▲5.8	▲11.7	▲11.1	▲12.5	▲21.4	±0.0(▲12.5)
卸・小売	▲25.9	▲21.7	▲26.0	▲16.6	▲34.7	▲29.1	▲25.0(▲30.4)
サービス	▲15.3	▲20.0	▲14.2	▲26.6	▲28.5	▲31.2	▲31.2(▲21.4)



【平成28年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△9.4(前月水準△22.2)となり、プラス幅が12.8ポイント縮小した。

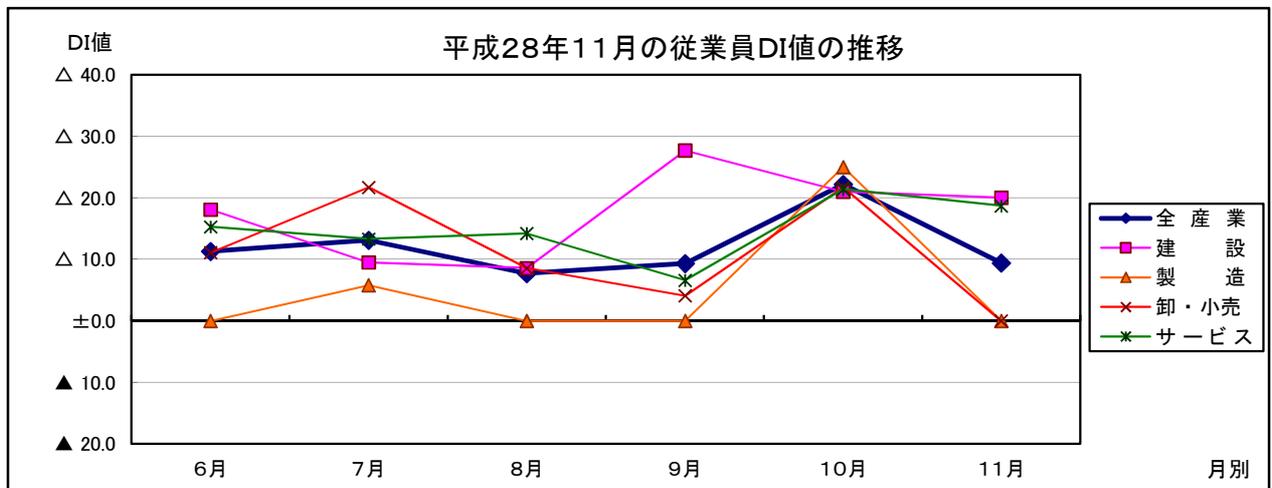
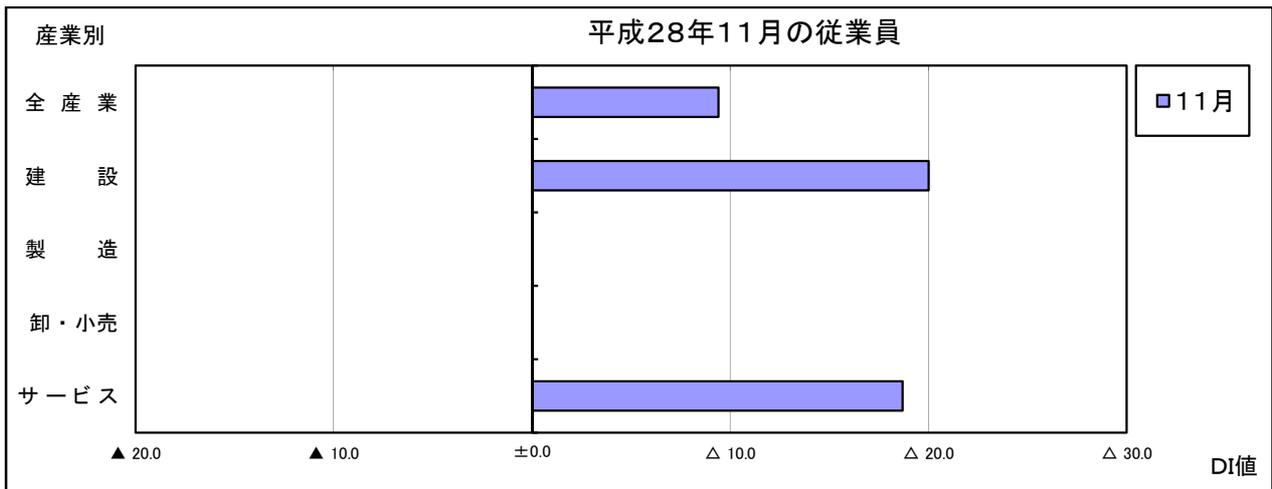
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でプラス幅が縮小し、幅の大きい順に、製造業±0.0(同△25.0)、卸小売業±0.0(同△21.7)、サービス業△18.7(同△21.4)、建設業△20.0(同△21.0)であり、特に製造業では、マイナス幅が25.0ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△12.1(前月水準△20.8)であり、プラス幅が8.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でプラス幅が縮小する見通しで、幅の大きい順に、製造業△7.1(同△25.0)、卸小売業△4.1(同△17.3)、サービス業△18.7(同△21.4)、建設業△20.0(同△21.0)である。

平成28年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△11.3	△13.1	△7.7	△9.3	△22.2	△9.4	△12.1(△20.8)
建設	△18.1	△9.5	△8.6	△27.7	△21.0	△20.0	△20.0(△21.0)
製造	±0.0	△5.8	±0.0	±0.0	△25.0	±0.0	△7.1(△25.0)
卸・小売	△11.1	△21.7	△8.6	△4.1	△21.7	±0.0	△4.1(△17.3)
サービス	△15.3	△13.3	△14.2	△6.6	△21.4	△18.7	△18.7(△21.4)



【平成28年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.8(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が7.9ポイント拡大した。

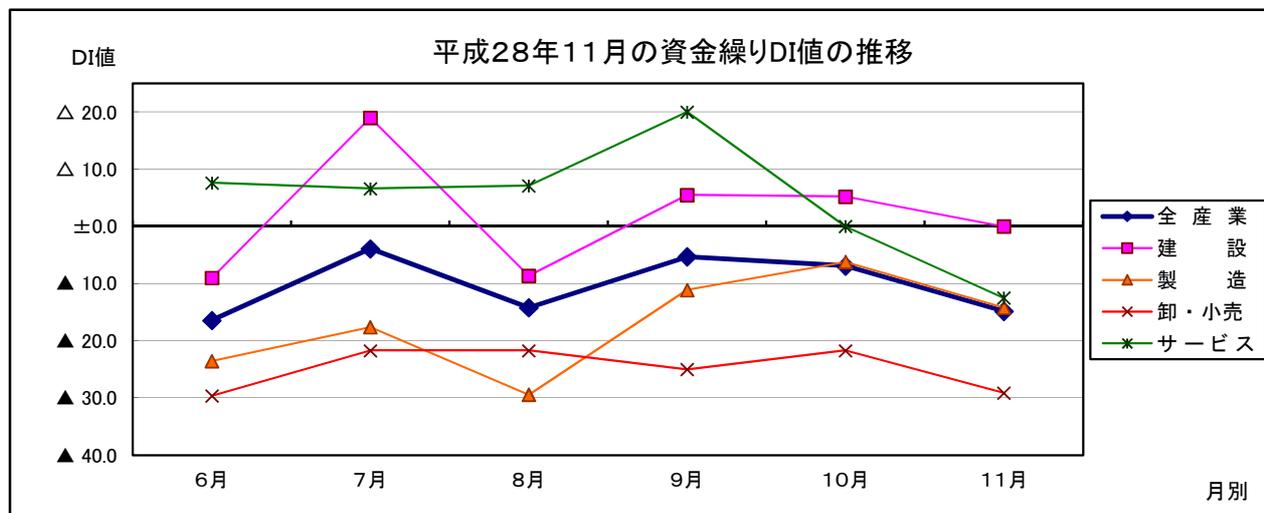
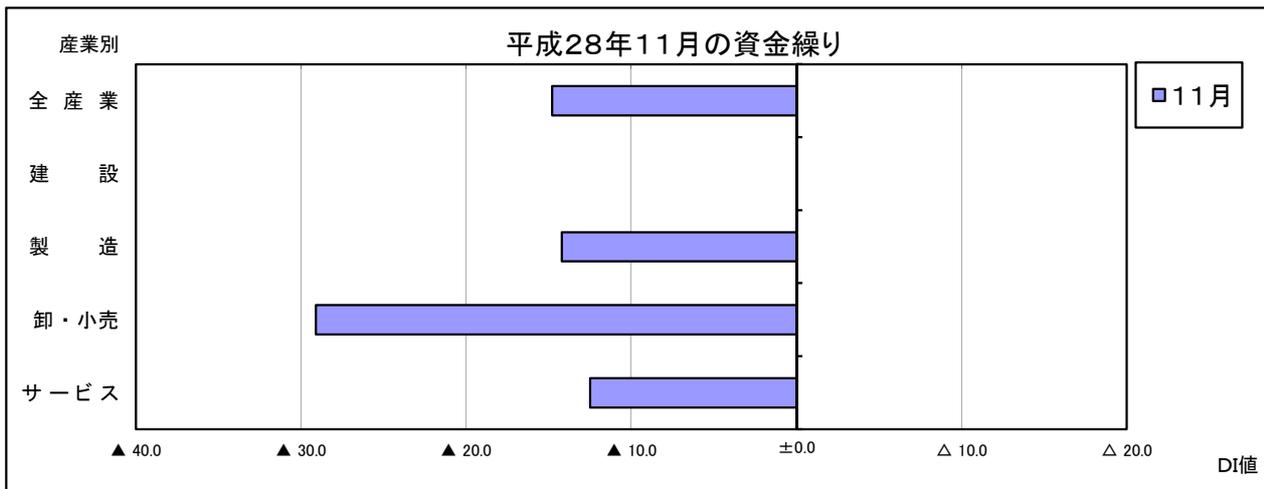
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△5.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲12.5(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲14.2(同▲6.2)、卸小売業▲29.1(同▲21.7)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.1(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が5.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同△10.5)、サービス業±0.0(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.0(同▲21.7)、製造業▲21.4(同▲18.7)である。

平成28年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲16.4	▲3.9	▲14.2	▲5.3	▲6.9	▲14.8	▲12.1(▲6.9)
建設	▲9.0	△19.0	▲8.6	△5.5	△5.2	±0.0	±0.0(△10.5)
製造	▲23.5	▲17.6	▲29.4	▲11.1	▲6.2	▲14.2	▲21.4(▲18.7)
卸・小売	▲29.6	▲21.7	▲21.7	▲25.0	▲21.7	▲29.1	▲25.0(▲21.7)
サービス	△7.6	△6.6	△7.1	△20.0	±0.0	▲12.5	±0.0(△7.1)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.2	▲ 8.1	▲ 27.0	▲ 16.2	▲ 25.6	▲ 20.2	△ 9.4	△ 12.1
建設	▲ 5.0	△ 5.0	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
製造	▲ 7.1	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 21.4	±0.0	±0.0	△ 7.1
卸・小売	▲ 37.5	▲ 20.8	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 29.1	▲ 25.0	±0.0	△ 4.1
サービス	▲ 6.2	△ 6.2	▲ 18.7	±0.0	▲ 31.2	▲ 31.2	△ 18.7	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 24.3	▲ 20.2	▲ 14.8	▲ 12.1
建設	▲ 25.0	▲ 15.0	±0.0	±0.0
製造	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 21.4
卸・小売	▲ 41.6	▲ 37.5	▲ 29.1	▲ 25.0
サービス	▲ 6.2	▲ 12.5	▲ 12.5	±0.0

【平成28年11月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	メンテナンス工事が多く、大規模工事は全体的に低い。	受注減少	一般土木建築工事業
	長雨の影響が続き、10月工期の現場がやっと完了。全ての現場で工期ずれの為、毎日段取りが大変な状況がずっと続いている。早朝、夜間、休日の作業が出来ない現場が多い中で、作業短縮は出来ず、突発的な仕事は断っている状況となっている。また、事務処理の人材が足りない状況が続く。	人手不足	その他の職別工事業
	銅価格が上昇しており、その影響でケーブル関連の仕入単価が上昇している。	仕入価格高騰	電気工事業
	先月から引き続き年内に畳工事をしたいというお客様が増加。マル得チケットを見たというお問い合わせも多かった。	受注増加	内装工事業
	少子高齢化の影響が出てきており、業績は右肩下がりが続きそう。	少子高齢化 先行き不安	その他の職別工事業
製造業	9月のみ好転したが10月からまた元に戻っている。年末の駆け込み需要に期待するも、低空飛行は続く見込み。	受注減少 先行き不安	その他の機械・同部品製造業
卸小売	衣料品不況の中、ますます低価格化が進んでいる。高額商品は苦戦中で、コートをはじめ全てのアイテムが良くない。	価格下落(衣料品) 競争激化	婦人・子供服小売業
	そごう閉店後、来店客数が減少。閉店までのセールが影響したと思われる。12月からの客足がどの様に推移するか、予測が見通せない。	そごう柏店閉店 先行き不安 客数減少	時計・眼鏡・光学機械小売業
	43年ぶりの11月降雪もあり、衣料品中心に安定した売上は確保できた。その中、寒さもあり肌着は好調に推移している。冬のお歳暮ギフトを開始し、昨年まで売れ筋の油、ビール、菓子などはあまり売れていない。果物、干し芋などが昨年を上回る動向を見せている。しかし、ギフト全体としては9掛けで推移し、不景気感は強い。毎日の食卓需要の野菜は価格が高く、食品全体の売上は高まらない傾向が続いている。	売上増加(衣料品) 仕入価格高騰(食料品) 価格高騰(食料品)	その他の各種商品小売業
	秋物は不調だったが冬物の出だしは好調。歳末セールに期待したい。	売上増加(衣料品)	その他の各種商品小売業
	野菜(じゃがいも、玉ねぎ、にんじん)や苺・卵などが高値になっており、厳しい状況。そごう柏店の跡地がどの様になるのかが心配。	仕入価格高騰(食料品)	菓子・パン小売業
	11月の突然の雪による影響で低温が続く、入荷量減少、高め取引で動いている。季節ならではの鍋物等の消費は動いているが、安価価格はすぐには望めない見込みだが、師走の忘年会などのイベントが多い時期であるため、しっかりと取引先に対応していきたい。	仕入価格高騰(食料品)	食料・飲料卸売業
	相変わらず人手不足が続いている。今後とも人件費は増え続けていくと思われるので、より付加価値の高い商品開発が必要である。また、どうすれば人が定着するかも会社全体で考えていかなければならない。	人手不足	各種食料品小売業
サービス業	年度末に向かい、新学期用品で単価の低い商品(200円～800円)の値上げが多い。来店客数は横ばいだが、客単価が低く収益の改善にならない。新年度より新規プロポーザルの提案案件があるが提案期間が短く、良い提案が出来ず厳しい。	客単価減少	その他の飲食料品小売業
	お客様からの問い合わせが減少している。不動産の購入意欲が下がっている。年末にかけて長期間滞留していた不動産が市場に出てくると推測している。トランプ効果にも期待したい。	受注減少(住宅関連)	不動産管理業
	そごう閉店の影響は大きかったものの、柏を良くするためには、各自の事業を充実させていく必要がある。	そごう柏店閉店	不動産賃貸業
	百貨店や老舗ホテルの撤退の影響と、近隣郊外商業施設の影響で、柏駅周辺の人の流れが減少している印象。	競争激化	不動産賃貸・管理業
設備投資減少が響いており、年度末に向けて売上の巻き返しを図るも、中々上向かない状況。	受注減少	ソフトウェア業	

◎仕入価格高騰

各業種より、「銅価格が上昇しており、その影響でケーブル関連の仕入単価が上昇している。」(電気工事業)、「毎日の食卓需要の野菜は価格が高く、食品全体の売上は高まらない傾向が続いている。」(その他の各種商品小売業)、「野菜(じゃがいも、玉ねぎ、にんじん)や苺・卵などが高値になっており、厳しい状況。そごう柏店の跡地がどの様になるのかが心配。」(菓子・パン小売業)、「11月の突然の雪による影響で低温が続き、入荷量減少、高め取引で動いている。季節ならではの鍋物等の消費は動いているが、安価価格はすぐには望めない見込みだが、師走の忘年会などのイベントが多い時期であるため、しっかりと取引先に対応していきたい。」(食料・飲料卸売業)、などのコメントが寄せられた。

◎受注減少

各業種より、「メンテナンス工事が多く、大規模工事は全体的に低い。」(一般土木建築工事業)、「お客様からの問い合わせが減少している。不動産の購入意欲が下がっている。年末にかけて長期間滞留していた不動産が市場に出てくると推測している。トランプ効果にも期待したい。」(不動産管理業)、「設備投資減少が響いており、年度末に向けて売上の巻き返しを図るも、中々上向かない状況。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「長雨の影響が続き、10月工期の現場がやっと完了。全ての現場で工期ずれの為、毎日段取りが大変な状況がずっと続いている。早朝、夜間、休日の作業が出来ない現場が多い中で、作業短縮は出来ず、突発的な仕事は断っている状況となっている。また、事務処理の人材が足りない状況が続く。」(その他の職別工事業)、「相変わらず人手不足が続いている。今後とも人件費は増え続けていくと思われるので、より付加価値の高い商品開発が必要である。また、どうすれば人が定着するかも会社全体で考えていかなければならない。」(各種食料品小売業)、などのコメントが寄せられた。

平成28年11月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「CCI-LOBO」が▲22.9で柏の方がマイナス幅が1.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.2に対し、「CCI-LOBO」が▲19.0で柏の方がマイナス幅が2.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.0に対し、「CCI-LOBO」が▲20.3で柏の方がマイナス幅が6.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.6に対し、「CCI-LOBO」が▲25.6で同じである。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△9.4に対し、「CCI-LOBO」が△16.9で柏の方がプラス幅が7.5ポイント大きい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.8に対し、「CCI-LOBO」が▲13.0で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業である。

平成28年11月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 24.3	 ▲ 25.0	 ▲ 14.2	 ▲ 41.6	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 22.9	 ▲ 11.0	 ▲ 18.2	 ▲ 38.5	 ▲ 20.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.2	 ▲ 5.0	 ▲ 7.1	 ▲ 37.5	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 19.0	 ▲ 8.8	 ▲ 16.6	 ▲ 31.9	 ▲ 16.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.0	 ▲ 30.0	 ▲ 14.2	 ▲ 37.5	 ▲ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 20.3	 ▲ 10.5	 ▲ 18.0	 ▲ 35.3	 ▲ 18.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.6	 ▲ 20.0	 ▲ 21.4	 ▲ 29.1	 ▲ 31.2
CCI-LOBO	 ▲ 25.6	 ▲ 21.9	 ▲ 14.3	 ▲ 30.4	 ▲ 32.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 9.4	 △ 20.0	 ±0.0	 ±0.0	 △ 18.7
CCI-LOBO	 △ 16.9	 △ 22.8	 △ 7.2	 △ 20.6	 △ 23.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.8	 ±0.0	 ▲ 14.2	 ▲ 29.1	 ▲ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 13.0	 ▲ 5.7	 ▲ 10.6	 ▲ 23.5	 ▲ 12.1

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成28年11月15日～21日

調査対象：全国の423商工会議所が2982企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、改善続くも力強さ欠く。先行きも不透明感から、慎重な見方

11月の全産業合計の業況DIは、▲22.9と、前月から+2.6ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。住宅など民間工事、公共工事の持ち直しが続いた建設業や、コスト上昇分の価格転嫁が進んだ卸売業の業況が改善した。また、電子部品や自動車関連の製造業で引き続き堅調な動きを指摘する声があった。他方、個人消費の低迷が長引くなか、慢性的な人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇、農水産物の価格高騰が依然として中小企業の足かせとなっており、業況改善に向けた動きは力強さを欠いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲20.8（今月比+2.1ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。年末年始の消費拡大、設備投資や公共工事の増加、米国大統領選後の円安株高の進展に期待する声が聞かれる。他

方、消費低迷の長期化や人手不足の影響拡大、米国の次期大統領の政策の影響など、景気の不透明感を懸念する声は多く、中小企業においては先行き慎重な見方が続く。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、卸売業、小売業で改善、その他の2業種でほぼ横ばい。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「住宅建設の受注が堅調で、売上は改善した。また、今年度の第二次補正予算でエコ住宅への建替え等の補助金が始まったため、積極的に売り込みたい」（建築工事業）、「公共工事や民間工事を問わず案件は多く、業況は良い。だが、残業時間の短縮を進めていることもあり、人手不足で受注できない案件が多い」（管工事業）、「他社との受注競争が激しい中で、労務費が高止まりしており、採算は悪化した」（土木工事業）

【製造業】「主要取引先である自動車メーカーが順調なため、引き続き業況は堅調に推移している。しかし、米国の

の次期大統領の政策次第では受注に影響が出るのではないかと懸念している」（自動車部品製造業）、「売上は改善したが、鋼線材の仕入価格は上昇し、採算は伸びていない。競合する外国製品は安価な上、最近品質も日本製品と変わらず、受注を奪われている。外国への工場移転や、外国企業との協業を考えざるを得ない」（鋼線製造業）

【卸売業】「自動車や建設関連等からの需要があることに加え、鉄鋼価格も持ち直しており、売上は改善した」（金属鉱物卸売業）、「天候不順により農産物の供給が不安定となり、売上は悪化した。また、価格も高騰しており、採算が取れない」（農産物卸売業）

【小売業】「気温低下に伴い、コートなどの衣料品が伸びたことで、ここ数カ月の売上の上落ち込みを取り戻すことができた。しかし、消費者の節約志向は強く、売上の改善は今後も続くとは思えない」（衣料品小売業）、「高額品の売上が低調で、採算も悪いため、県内でもいち早くお歳暮ギフトセンターを開設した。好調なおせち商戦との相乗効果を図り、売上回復に繋げたい」（百貨店）、「気温の低い日が

増えて、暖房器具等の家電の買い替え需要が高まってきており、売上は改善した」（電化製品小売業）

【サービス業】「年末商戦関連の貨物が増えており、前年より受注量は増加した。だが、ドライバー不足で断らざるを得ない案件もある」（運送業）、「農産物価格が高騰しており、今後も上昇が続く見通し。コスト増加分を宿泊料金へ転嫁できず、採算が悪化している」（宿泊業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲24.8	▲22.5	▲22.1	▲30.4	▲39.9	▲12.5
7月	▲24.5	▲22.6	▲20.8	▲27.5	▲37.2	▲16.9
8月	▲24.9	▲17.8	▲20.2	▲33.1	▲38.2	▲18.9
9月	▲27.8	▲16.1	▲24.7	▲27.7	▲43.5	▲23.8
10月	▲25.5	▲12.9	▲18.1	▲29.0	▲47.6	▲20.7
11月	▲22.9	▲11.0	▲18.2	▲26.4	▲38.5	▲20.3
見通し	▲20.8	▲11.9	▲19.4	▲25.6	▲36.2	▲12.4

柏の景気情報

(11月の調査結果のポイント)

調査期間：平成28年11月24日～12月7日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数74件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
見通し	▲20.2	▲15.0	▲7.1	▲37.5	▲12.5

「見通し」は今年の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「柏市」の業況

業況D Iは2ヶ月連続でやや悪化。先行きも景気の不透明感から慎重な見方が続く

11月の全産業合計のD

I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲22.2)となり、マインナ幅が2.1ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マインナ幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲28.5)、製造業▲14.2(同▲25.0)で、特にサービス業ではマインナ幅が22.3ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲

25.0(同±0.0)で、マインナ幅が25.0ポイントと大幅に悪化した。マインナ幅が拡大した業種は、卸小売業▲41.6(同▲34.7)である。

【建設業】からは、「先月から引き続き年内に畳工事をしたいというお客様が増加。マル得チケットを見たというお問合せも多かった。」(内装工事業)、「少子高齢化の影響が出てきており、業績は右肩下がりが続きそう。」(その他の職別工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「9月のみ好転したが10月からまた元に戻っている。年末の駆け込み需要に期待するも、低空飛行は続く見込み。」(その他の機械・同部品製造業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料品不況の中、ますます低価格化が進んでいる。高額商品は苦戦中で、コートをはじめ全てのアイテムが良くない。」(婦人・子供服小売業)、「そろそろ閉店後、来店客数が減少。閉店までのセールが影響したと思われる。12月から客足がどの様に推移するか、予測が見通せない。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「43年ぶりの11月降雪

もあり、衣料品中心に安定した売上は確保できた。その中、寒さもあり肌着は好調に推移している。冬のお歳暮ギフトを開始し、昨年まで売れ筋の油、ビール、菓子などはあまり売れていない。果物、干し芋などが昨年を上回る動向を見せている。しかし、ギフト全体としては9掛けで推移し、不景気感は強い。」(その他の各種商品小売業)、「秋物は不調だったが冬物の出だしは好調。歳末セールに期待したい。」(その他の各種商品小売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「年度末に向かい、新学期用品で単価の低い商品(200円〜800円)の値上げが多い。来店客数は横ばいだが、客単価が低く収益の改善にならない。新年度より新規プロポーザルの提案案件があるが提案期間が短く、良い提案が出来ず厳しい。」(その他の飲食料品小売業)、「そろそろ閉店の影響は大きかったものの、柏を良くするためには、各自の事業を充実させていく必要がある。」(不動産賃貸業)、「百貨店や老舗ホテルの撤退の影響と、近隣郊外商業施設の影響で、柏駅周辺の人の流れが減少している印象。」(不動産賃貸・管理業)、などのコメントが寄せられた。

11月の景気キーワード

「設備投資減少が響いており、年度末に向けて売上の巻き返しを図るも、中々上向かない状況。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。

【仕入価格高騰】各業種より、「銅価格が上昇し、その影響でケーブル関連の仕入単価が上昇。」(電気工事業)、「毎日の食卓需要の野菜は価格が高く、食品全体の売上は高まらない傾向が続いている。」(その他の各種商品小売業)、「野菜(じゃがいも、玉葱、人参)や毒・卵などが高値になっており、厳しい状況。そろそろ柏店の跡地がどの様になるのかが心配。」(菓子・パン小売業)、「11月の雪による影響で低温が続く、入荷量減少、高値取引で動いている。鍋物等の消費は動いているが、安価価格はすぐには望めない見込みだが、師走の忘年会などのイベントが多い時期であるため、しっかりと取引先に対応していきたい。」(食料・飲料卸売業)、などのコメントが寄せられた。

【受注減少】各業種より、「メンテナンス工事が多く、大規模工事は全体的に低い。」(一般土木建築工事業)、「お客様からの問い合わせが減少している。不動産の購入意欲が下がっている。年末にかけて長期間滞留していた不動産が市場に出てくると推測している。トランプ効果にも期待したい。」(不動産管理業)、

CI・LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「CI・LOBO」が▲22.9

で柏の方がマインナ幅が1.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業では10ポイント以上悪い。